学校番号	１００１

令和８年度　理科

教科	理科	科目	生物	単位数	４単位	年次	３年次
使用教科書	生物[生物 701]　（東京書籍）						
副教材等	ニューアチーブ生物（東京書籍）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

生物基礎では「生物とは何か」について学びました。その先にある生物の授業では「進化と遺伝」「細胞と分子」などの視点から，生物の共通性や多様性についてさらに深く学んでいきます。その中で，私たちと全く異なる生物が，進化や遺伝発現に関して同じメカニズムを持っていることに気づくでしょう。それと同時に，他の生物が，我々ヒトにはない優れた特徴を持っていることにも気づくはずです。

人類が持続可能な発展をしていくためには，生命を尊重することや，自然環境を守ることが不可欠です。生物を学ぶことで，私たち人間や，それをとりまく多くの生命と環境について学んでいきましょう。一緒に生物学の見方・考え方を深めていきましょう。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
日常生活や社会との関連を図りながら，生物や生命現象について理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付ける。
【思考力、判断力、表現力等】
観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】
生物や生命現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度と，自然環境の保全に寄与する態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	生物や生命現象について理解しているとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	日常生活や社会との関連を図りながら，生物や生命現象について問題を見いだし，見通しをもって観察・実習などを行い，科学的に考察し表現しているなど，科学的に探究している。	生物や生命現象について主体的に関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	生物現象と物質	生命の起源と細胞の進化 遺伝子の変化と進化のしくみ 生物の系統と進化	a:遺伝子が分配されるしくみである減数分裂について理解し,遺伝子の変化がどのように子に伝わるかを考察できる。 b:DNA の塩基配列に生じる突然変異が,生物の形質にどのような変化をもたらすかを見いだして理解させる。 c:現生種についての比較形態,比較発生,生物分布などの資料から進化の証拠を理解し,進化説の理解を深めようとする。	定期考査 小テスト	レポート 定期考査	レポート 観察・実習 振り返り
	生物現象と物質	細胞と分子 生命現象とタンパク質 代謝	a:タンパク質の基本的な構造を理解するとともに,細胞の形の維持には細胞壁などの炭水化物や,微小管やフィラメントなどのタンパク質が関与していることを理解している。 b:酵素に関する実験を行い,生命現象に酵素の働きが関わっていることに気付くことができる。実験から,酵素には最適温度や最適ｐＨがあることを考察することができる。 c:生命活動に必要なエネルギーを,呼吸や光合成から得ていることを理解しようとする。	定期考査 小テスト	レポート 定期考査	レポート 観察・実習 振り返り
	遺伝情報の発現と発生	遺伝情報とその発現 発生と遺伝子発現 遺伝子を扱う技術	a:遺伝子発現のしくみを理解するとともに,動物の発生とそのしくみについては,ヒトとの共通点のあるカエルについて学習し,形態形成運動や誘導などの働きによって複雑なからだのつくりができあがっていく過程を理解している。 b:遺伝子の発現調節のしくみについて,調節遺伝子やプロモーター,転写調節領域などの語句を用いて,一連の流れを説明することができる。 c:バイオテクノロジーについて関心をもち,生活にどのように役立っているのかを知ろうとする。	定期考査 小テスト	レポート 定期考査	レポート 観察・実習 振り返り

後期	生物の環境応答	動物の反応 動物の行動 植物の成長と環境応答	a:動物の行動は，刺激の受容にはじまる一連のしくみによって成立していることを理解している。 b:眼を中心とした受容器の構造と機能を関心をもって学習し，光量調節や遠近調節などのしくみを説明できる。 c: 植物の反応や調節が植物ホルモンによって行われていることを理解し，身につけようとする。	定期考査 小テスト	レポート 定期考査	レポート 観察・実習 振り返り
	生態と環境	個体群と生物群集 生態系	a:ウキクサを用いた実験から，個体群がどのように成長するかを理解することができる。また，個体群の密度の変化が，個体数や個体の形質に影響を及ぼすことを理解している。 b:生態系の構造や働きを，物質循環エネルギーの流れの観点から考察し，表現することができる。 c:それまでに学習した内容から，人類の活動と自然破壊の関連性について考察し，自然保護環境保全の意義を実感として理解しようとするとともに，主体的に行動できるような意識をもつ。	定期考査 小テスト	レポート 定期考査	レポート 観察・実習 振り返り

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度